WILSON
HQ
1111
C74+
Mar. 1892
no. 308

女學雜誌

第三百八號
明治二十五年三月十二日發兌

疱瘡の話
京城の雪の朝 愛山生
伽羅枕と新葉末集 透谷隱士
女子教育今日の趨勢 社説
小說の實際派を論 無名氏譯
新小說蓮華草 ひさご
妾が良人ビーチヨル氏

下六番町六番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 308. MARCH 12TH. 1892.

EDITORIAL :—Topics of the Day.

LEADING ARTICLES : —Realistic Novels.

NOVELS :—"Rengesó" (Hisago.)

MISCELLANIES :—Mr. H. W. Beacher as I knew Him. (Mrs. Beacher.) Psalm Translated into Verse. Smallpox and Vaccination. (Concluded.) After the Snowstorm.

CRITICAL NOTES :—

CONCERNING WOMEN.

NEWS OF THE WEEK.

第三百八號目次

●社說 時事雜感

●論說 小說の實際派を論ず

●小說 蓮華草（ひさご）

●雜錄 妾が良人ビーチョル氏（ビーチョル夫人）〇詩篇の譯詩（雲峰子）〇疱瘡の話〇京城の雪の朝（愛山生）

●批評 伽羅枕と新葉末集（透谷隱士）〇思潮百波

●女報

女學雜誌社出版書目

著者	書名	冊數	價
鈴木弘恭大人述	つれづれ草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊（四版）	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著	産婦小見攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學士星野寅之介君著	昆蟲植物金石採集法	一冊	同十錢

下六番町六番地

女學雜誌社

●●松蔭女學校女生募集

本校ハ家族主義ヲ以テ實用貞靜ノ婦女ヲ養成スルヿヲ期ス望月興三郎氏敎育ノ主任ニ當リ望月くに子塾舍ヲ監督ス來四月八日本科壹年豫科壹貳年級ヘ入學ヲ許ス同五日迄ニ御申込アレ但定員ニ充ツレハ謝絕スベシ尋常小學校卒業者ハ入學試驗ヲ要セス規則書ハ郵劵貳錢ニテ呈ス

神戸山本通壹丁目拾番

松蔭女學校

女學雜誌 第三百八號
明治二十五年三月十二日發兌

社説

時事雜評

○女子教育今日の趨勢

我國の女子教育は、前后二回の大誘惑に會ひぬ。一と度びは、西洋流に狂奔し、英語、舞踏、假裝、となり、一と度びは、舊弊流に偏僻し、針箱、茶の湯、割烹のみとなりぬ。此の二つ何れも不可なり。日本の女子は西洋流に仕立つ可らず、之れ勿論のとなり、然れども、明治の女子は亦た鎖港時代に押込む可らず、之れ同じく明白の事とす。

吾人不肖もとより公平の徳に於て得たりとせず、況んや遠識をや。たゞ、平凡の見、尋常の識を以てすといへども、尙能く、今の女子教育が、彼の兩極に偏す可らざるとを覺るとを得べし。此の故に、前後八年を通じて主張する所ろのものは、英和内外の一つに偏せざる、折束和平の教育法これ也。而して、此間、毫末も譲らざる所のものは、徳育を基督教の上に置かんとするの一義にして、而も、基督教の女子徳育を、西洋人の手に一任せざらんとを欲する者是れ也。

今や、舊弊の流一轉し、保守の熱大ひに下れり。一時さしもに燃上りたる國家主義の吹聽も、其故障に衝當りて、具眼の士、すでに開目せり。見よ、田舍僻村の伴隨者、愚かにも尙ほ此ごろより、保守論を唱へ出んとすれど、牙城既に白旗を建てゝ、日本主府に於ける公論、早く一變せんとす。而して、條約改正の話、新らしきを好み、大計策を待ち構ふるの民心、ともに大ひに、改進の氣運を促がし來らんとするの今日、女子教育も亦た昔日の西洋流に立歸らんとするの兆候稍やく見はる。

時勢をして再たび過ちに入らしむ可らず、我が女子教育界をして、再應、西洋流に狂せしむべからざる也。今に於てもし流を利導せば、今后の方向は正に中流を進むべし。日本女子教育の前途庶幾くは、大中至正の道に適かんか。吾黨が大叫揚言して、路標を指示すべきの時機實に今日に在る也。四方同志の人、希はくは努力せよ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○當世の閨秀及び名媛

讀賣新聞が明治閨秀美譚を掲ぐるや、屢ば遊里の桃柳を記るす。必らずしも之を紆かんとにあらず、寧ろ之を寛容するに似て少こしく遺憾の念ひなきにあらず。時事新報の記者が掛念する所ろ當らずと云ふべし。臓腑は解剖の爲の外、暴露すべからず。止むとを得ず筆誅するの外、桃柳の怪根を穿つは効なくして害あり。彼等は宮庭の橘櫻に近づく可らず、御神苑自から異薫なかる可らず。

讀賣新聞亦た十六名媛の投票を募る。投票の眞を得ざるや久し。そは、着實愼謹の人輕々しく募に應ぜず、輕薄浮操の人慰さみの心にて戯を書送るによる。かゝる投票をもて眞名の多數者を定るは難し。然れども、その事あくんば止む、既に此事ありとせば、成べく、虚榮を貪ぼる人の名を公衆注目の燒點に中らしめざるとを望むべし。亦是れ一種の敎育なり。同志の人、寸暇を與へて、一紙を寄するも可なり。但だ吾人は如此き趣構の餘り行はれざるとを希望するものなり。

○辭職及び降參

政海の底測りがたし、况してや斯く霧霞の立こもる曉に於ては、年來の舟人楫を絶え、其方針に惑ふ所なきを得ず。風説に云く、伊藤伯辭職せりと。而して、辭職の理由は、撰擧の干渉に不滿あると、憲法を擁護せんとの志あるとに因みすと傳ふ。樞密院に議長たれば、憲法を擁護するに最上の便あらずや、選擧の干渉に不滿あらば、更に早く打出でゝ言ふべき機會なからずや、如此き理由を以て、選擧の結果思はしからず、民心の怨訴たゞならぬ今日に際し、脱然多年多縁ある現内閣を去らんとするは、俠骨ある人士の敢て爲さゞる所ろなり、吾人はかゝる無俠骨の處爲を以て伊藤伯に擬するとは能はざるもの也。故に伊藤伯は辭職せずと信ず。又、風説すらく、品川子辭職せりと、而して、此の人の辭職は、選擧の結果を一身に擔負し、内閣に代つて天下に申わけを爲すに因ると傳ふ。されど、品川子一人責を負ふて、内閣之を免るゝとを得ず、内閣、品川子一人に責を負はせて、獨り超然たるの理由なし、現内閣は、かゝる明白なる不理、無友義の處置を爲さゞる也。故に品川子は辭職せずと信ず。辭職、辭職。何んぞ近年辭職の多きや。甲東、南洲、異事あるとなし、唯斷じて任じ、死して當るにあるのみ。現内閣の諸公、何んぞ一奮せ

ざる。逃るゝも、人は賞めず、當るも、人は非らず。假りに社會の評判にのみ生死すとするも、尚斷じて進むの價値あり况んや方今國家が豪任敢爲の傑士を要するは何よりも切なるをや、諸公須らく傑士となるべし。

○世人の壽命

近來世人の壽命特の外短かくなれり、或人は一二年なり、長きも三四年なり、何んぞ其の夭するとの多きや、見よ、國士公人(パブリック、メン)として、長くも一二年の譽れの壽命を保ちしものありや。世上虚榮の壇上、たゞ死骨の累々たり怨惜して亡魂のさまよふを見るのみ。而して、未だ死せず、幸ひに一髪一縷の余命を續ぐものも、三四年に越ゆる以上の經綸を畫するもの至つて稀なり。彼等が靈想は其后に對して死せるに均し、世間、大策を聞くと稀あり、只だホラの音を聞く。ホラの音は高し、蓋し亦乍ちにして消るもの歟。

○日本古代史の研究

日本の開化史を研究せんとするは難い哉。保守偏曲の徒、歴史的、歴史的と云ふ。而して、明らかに、日本人種の淵源、開化渡來の由縁を論ぜんとすれば、切りに國躰、國躰とさはぐ。而して、國躰を眞との公法論的に解釋せんとすれば、切りに、帝室、帝室と揚言す。帝室、維新に於ての聖約、如此きものあらざりし也。吾人は、久米氏の論旨に同意するものにあらず。然れども、學者の研究は、自由ならざる可らず、之れ治安の基ひなりと信ず。區々たる小策は遂に天下の大綱を維持す可からず、况んや壯士を以て、眞理探明に敵せんとするをや。憫笑すべし、歎息すべし。

○神道維新の機

神道社會もし人あらば、今に於て必らず宗教味を洗除するとに心付くべし。豪傑平田篤胤の如き人あらば、必らずや此の如く斷ずべし。其人、何處にありや。宣長と篤胤と共に云く、神代の神たちも多くは其代の人にして、其代の人は皆神(迦微、何にまれ尋常あらずすぐれたる德のありて畏こきもの)なりしゆへに神代とは云ふなりと。

○熊本英學校事件(三度び)

知事の命令に服せず、分離したる一派の人々は、新に英學校を起し、知事が再應同様の命令を爲んとき、何處々々迄も、之に服從せざるの決心なりと云へり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

小説の實際派を論ず

無名氏譯

「そも〳〵小説家の理想派なりといひ實際派なりといふは之を作りしものと之を讀むものとが「自然」に對する觀念にこそよらめ。こゝろ若くして「ローマン」の傾向を帶ぶるものは The Hearx of Midlothian. 又は Guy Mannering. を讀みてこれぞまことの人生の「レプロダクーション」なりけるといはむ更に世愁を味ひしものは The Mill on the Fross, Vanity Fair. 又は Prime Minister. を讀みてこれこそ人生の眞を得たりけめといはむ。かの人間の窮鬼なりと見むものは何をもて人生の「レプロダクション」ありとしたる、曰くこれあり Nana. これなり L'assommoir. これなり」噫これサッカーマンが英國散文小説史中の語にあらずや。「天下人多し人多ければ目多し目多ければ耳多し耳多ければ鼻多し鼻多ければ口多し口多ければ人生の眞を説くこともまた異ならざるを得むや左れば小説家はその傾向に從ひておの〳〵人生の虛界を作りこゝに喜怒哀樂の情を弄ばざることなし」これモーパサントが Pierre of Jean. の序中に記したるところならずや。この故になにがしの小説は實を得たりといふも是これをもて實を得たりとするものに實を得たるなり其小説のまことに實を得たりやいなや未だ容易に知るべからず

夫れ美術家は凡境を驅て之を妙地に轉ずるの伎倆を有すこれ「レプロダクション」の勝れたるによればなりけり。ラスキンの繪畫訓蒙に曰く「夫滂湃海濤不易畫也反取路傍之一石而畫之美術在其中矣」あに海濤と路傍の一石とのみならむや人間を畫こと亦これに等しきものあり試に平素したしきところの人を借て敍事の「モーデル」に當てよ其人の性行にはちとのおかしみだにあらざるも之を畫いて聲あるときは人物よく活動してこゝに美術のあはれをとゞむ人もしこの術を得たらむにはこれ一歩小説家の領地に闖入したるなり予はこれをもていみじき小説家となり得べからむとはいはず唯之をもて小説を作べしといふ。然れども小説家にして左る人物を捉え來り先づその容貌を畫きて後その衣服を寫し衣服を寫して後この音聲を聽き全篇を「アセクチーブ」の裡に埋沒して自

ら一人を畫き得たりといふ是等の人はいよ〳〵其叙形を密にしていよ〳〵人生の實を得たるものとなせり聰これ予が所謂實際派ならむや渠等いづこに「オルガニック、ユニチー」をもて實際派の本質としたりける

夫れ鬼神の業にあらざるよりは人について幾面の傾向と性情とを抽寫せむこと難し是においてこれを畫かむとするものは其知れる限りを盡して後にやむ左れば一語なりとも其人物の骨髓に入るものをもとめて敢ておろ〳〵の畫工を學ばざる是をまことの小説家とはいふ。この人の人間を畫かむとするや敢て耳目を畫かず敢て口鼻を畫かず敢て長短肥瘠を畫かず一躍して直にその人間を畫く。個人を畫くに於てすでにしかり况むや人と人との關係を抽寫してかの蕩々たる人生を捉えむとするものをや予はこゝに於ていたく美術家が選擇力の必要を思ふ左るはこの選擇の力を缺て筆端巧妙なる畫圖に落ちず反てこれ讀むに堪え難きあやしの小説となるべければなり。レマイターのいはく「凡小説家欲畫人物者必先不可不看破其髓處髓處既在焉何者不隨」この故に「自然」の「レプロダクション」なるものはわづかなる觀察を綴りてやむべきにあらず左はあれど所謂實際的なる叙事を作らむとせばこの點綴法なるもの反てまことの美術的「レプロダクション」に必要なるが如し予は敢て點綴法の不可を言はず唯かのおろかなる點綴法をしりぞくるのみ唯かれが畫かむと欲するところのものを畫かずして反ておのれの才學を畫かむとするを惡む。難いかなわづかなる禀賦を弄して蕩々たる人生に對せむとするの徒や。こゝに學ぶこと潤からず鑿ること深からずしてかの「レプロダクション」の妙地に出でむと思へりや。こゝに精確なる觀察の要やなかる。こゝに絕凡なる概念の要やなかる。こゝに高尙なる聯想の要やなかる。夫れ人の性情を解せむとするものは予等が日常老幼に對するが如きものにして可ならむや之を畫かむとするものは先づその感情的角度にてらして他人の心裡を讀まざるべからず。かの樂天家を見よ厭世家を見よ。かれが放笑とこれが哀傷とは其外象を捉えて之を畫かむこと易し一人は何の爲に呵々とうち笑ひ一人は何の爲によゝと泣きけむ其象の底を叩いて性情を冥々の裡に捜らなむこそ世の常の小説家が企て及ばざるところなりけれ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

予はすでに小說家が心理的讀法の必要を說けり。何をか心理的讀法の實といふ。夫れ作者の傾向と標準とをもて茫々たる江湖のうちに沒し將然の因を察し既然の應を思ひおのが觀中に人世の雜相をあつめむとせばこゝに深き同情の念（Sympathy.）を要するものなりされば作者先づ人物の性行に入り進むで其盡く可き行爲に融化するときは渠とゝもに悲み渠とともに笑ひ渠とゝもに戀ひ渠とゝもに恨む。かれの幽玄なるくる〳〵と一夢のうちに枯野をかけめぐらば作者亦くる〳〵と一夢のうちに枯野をかけめぐらざるべからず。かれの洒落なる藻のあちらの岸に身を寄すれば作者亦藻のあちらの岸に身を寄せざるべからず。こゝに於て遂にジョージ、エリオットをして Adam Bede. を作らむとするとき「わが心ふさがりしやとこそ淚とゝもにいでぬ。とゞめむとせしことも幾度か」といはしむるにいたる。知らずや實際の價値はこゝに存するを

當今小說壇のうへにたちて實際派もしくは自然派の詩法を奉ずるもの隨一人をエミル、ゾーラといふ。いざや讀者とゝもに渠が自然派の詩法なるものを聽かむ

ゾーラの小說論によれば觀察（Obserbation.）と實驗（Experiment.）とを科學の方則に驅て之を文學的構成法に適用するもの之をその實際派とはいふめり。ゾーラが Le Roman Expérimental を作らむとするやクラウデ、ベルナードが Introduction à l' Etude de la Mèdicine expérimental. を學びてこの「ローマンサー」が追へる方法に從ひしや明かなり。そのいふところや先これを始むるに「自然」の精確ある觀察を以てし之に次ぐに該博なる實驗を以てすべきなりとぞ。ある人これを議して「あはれいかにして「ローマンサー」の實驗を用ゐんやといへり。げにも人間は草木に異なりこれを思ふまゝなる化學的の試驗にかけむも烏滸なれ。さはあれどこれ豈にゾーラの心ならむや渠ベルナードの語を借て曰く「夫れ「自然」が與ふるところのものを受けて其現象の學びに穿鑿法を適用するものゝわれ之に觀察家の名を許さむ「自然」の相を變化せしめて之を其の象中に見難き別天地に置くの穿鑿法を知るものわれこれにわが實驗家の名を許さむ觀察家は天地の象とこれが因との關係を求む渠はこの象を現ずるに必要なるかず〳〵の約束を探るなり實驗家は前者の發揮したる因と應とを受

けて其法則により相の幾面を作る渠は其觀察したりし相の實を說明せむが爲に人物と境遇とを作れるなり既に觀察ありて實驗あり實驗あらば「モヂヒケーション」の想また之にともなはざる可らず。夫れわれらの一步を擧ぐるや常にまことの實に於てすこれぞわれらが立脚の地なりける左はあれどこの事實を一轉して之に風雅の旨あらしめむとせばわれら先づ象を作りて之に鞭撻を加へざるべからずわれらはこゝを指して創作の地といふこゝを天才發動の地といふ。試にバルザックのCousine Betteを讀め是たゞわが所謂實驗を美術的の姿に籠めしものなるのみ左ればかの自然派の「ローマンス」とは作者が一塲の實驗法にして之を鼓するに「觀察」をもてしたるのみ」

これをもて見るときはゾーラの所論實驗說あるもの敢て知り難きにあらざりけり。蓋しゾーラは現實變象の法を得たりしものにあらずたゞその變象を想像してこゝに結論を求めたるのみ渠は先づその「ハイポセシス」を作りてこゝに一定の基礎を確定しこれを風雅のまことゝなして更に他の「ハイポセシス」を作るものなり固より人世の變轉を觀じて其應と果とをあつめ來るときは風雅に適ひたる汎則をや得べけむ然れども是想像力を喚び出して更にその定則を得るの路なるのみ。知らずやかの「ハイポセシス」は科學の理想なり。小說に於ては虛を驅て之を實の比較にはなつ然れども之によりて小說を實ありと斷ずるは烏滸也。この故に小說は想像のしたにうまれてこれを創作の能力に適用したるものゝ。見よかの實際派は「レプロダクション」と「クリエーション」との二素を要せむにゾーラの着服は主として後者の影を追へり

ゾーラはわれら既に之に聽くその實驗說はわれら既に之を了すいでやゾーラを謝してモーパサントの說を聽かむ。モーパサントはゾーラの同臭なり自然派の一味なり唯その臭やゾーラのごとく酷しからざるのみ渠はLes Rougon-Macquartの作者の如き哲學者に非ず渠は決して理想派をしりぞくるものにあらず。そのいふところによれば詩人は理想のかなたを行き小說家は實際又自然のこなたに濶步すべしと。蓋し渠はゾーラに似たる偏着の自然派にあらず渠は現今の「ローマンス」をもて「自然」の眞を欠く可からざる心の歷史とはなせりけり。さはあれど假に渠儕實際派の論點より觀察するにモーパ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

サントが「眞之一字耳矣」といひけむは動かす可らざる定則にあらず。そは渠が小説の目的なるもの人世における不變の哲理を説明するにあれば現實的における觀察の果といへどもその想像に適はざるものは之を改むるの必要を見るべければなり。予は是に於て實際派を「イリユージョニスト」なりと悟入したるモーパサントの小説論の L'Assommoir. の作者と相さることと遠からざるを知る。あはれいみじき詩神よ幽遠の魂よ予をしてゾーラとモーパアントとの二家を追ひ現今實際派の眞相を看せしめよ

夫れ小説壇に於てかの「自然」を學ばざる可らずと信ずるものの悉く之を其籠中に藏めむとせば其弊や遂に渠をして「自然」の囚となり畢らしめむ。渠は自然界の小「ユニチー」に出入すれども之によりて更に其小「ユニチー」を大「ユニチー」中に沒了するの念を忘るゝに至る試に蟲眼鏡をとりて細微を照し見よ其見むとするところいよ〳〵明かなれど是に依て反て眼界の區域をせまふせり小説の理また之に等しからざらむや Les Rougon-Macpuart の記者遂に語をなしていはく「夫れ小説家は道德家に非ずして解剖家也渠は詩刀を揮て人間の形骸を割く是故に文學に於る自然派の法則なるものは科學の法則に異なるところなしと

噫人生や何ぞその渺々漫々として而も無際なる。これによりて平素人の語る可らざるも多く言ふは忍びざるもの多し。その語る可らざるもの言ふに忍ひざるもの世の小説家また之を其筆に化すること鮮なく之ありと雖も僅に其一端に觸れてこゝにおぼろの名殘をとゞむるのみ。然るにかの實際派がその「セオリー」の壺中より起き上りて既往文壇の風潮を回顧せしやいたく前なる小説家を以て不完全なりとしこれを改めむとするの一念を熾にするに至る是に於てか其實際的の眼中に落つるもの悉く之を驅て其筆端に皷舞せざるはなく天地やありとあらゆる風雅のまことの其小説にくつろはぬぞなかりけるといへり。宜なる哉渠儕がこゝに人世を畫き盡したりと誤想せることと

噫人の忍ぶ能はざるところ實際派之を忍ぶ。人の言ふ能はざるところ實際派之を言ふ。ゾーラの徒が小説壇上に立ちて技倆を千古に擅にしたること豈其故なからましや。一圏の醜と雖もかれら之を放たず一塊の淫と雖もかれら之を捨てず。お

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

そろしきことあさましきことと渠儕に於て何かあらむ噫實際派かの La Terre. に落ちておどろ〳〵しき魔窟とはなりぬらむモーパサントの筆の跡こそ嘔吐を催す種となりけめ

實際派更に私語していはく「われらは作者之觀察者之科學的批評家之われらは人生を畫て常に之を樂むわれら之を樂むに何の不可なることあらむや。われらの小説を罵らむものは先づ行て天地の眞を罵るべし去て人生の象を罵るべし」と。焉ぞ知らむ渠儕の所謂天地の眞なるもの是天地の眞に非ず渠儕の所謂人生の象なるもの是人生の象にあらず。渠儕は其見むとするものを取て先づ之を偏見の中に沒す渠儕敢てまことの世相を觀ぜざらむとおもへるにはあらず其僻性たるや渠儕をしてまことの世相に對せしめざるなり。是に於てゾーラの詩法を學ばむとするものは先づ其偏見を學ばざる可らず

噫かの實際派の本領を考ふるに渠儕は美術を以て科學を追はむとするの徒之其讀者に與えむとするや審美的の快感にあらずして反てこれ「識」とぞいふものなりける。思はめや美術の天地を現實に籠めむとするものそも〳〵想を引て之をいづこに置くべきところぞ。或はゾーラの所謂美術の科學的なるもの其偏見に不偏ならむ左はあれど誰か想像と創作の業をもて科學と共に「ハイポセシス」の壺中に縮まむとする如き愚を學ばむや。人もし美術の想海に遠詠してこゝに無限の快感をさぐらばゾーラ亦何ぞこれを併せ有するの心なかる。夫れゾーラの偏は不偏の偏なりや予得て之を知らず左はあれどかの科學的小説なるもの予既にその語義の撞着を見るを知らずや小説にして科學的ならむか是即ち小説にあらじ科學にして小説的あらむか是即ち科學にあらじかの實際派なるもの科學を愛すること斯の如くならば何ぞ文學の中より小説なる一部分を除いて更に現實的なる敍事の逵に遊ばざる。かの歷史傳記なるもの或はさる人の爲に席を設けなむに

噫予豈にかの實際派の詩法をいやしむものならむや。たゞ其うちに美術的區域の存すべきものなるを信じて敢て極端なる實際家ゾーラ、モーパサントが徒の偏見を正さむと思ひたるのみ。あはれいにしへより「自然」を「レプロヂユース」するの力なくしていみじき美術家となりしためしあらむや。

次號には愛山生が「我國老ひたる乎」の長論文をかゝぐべし。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

蓮華草（上）

ひさご

梅が香かをれどさえかへるさむさに、雨しと〳〵と降りて、軒をめぐる點滴、かつとだえ、かつ音する風のまに〳〵、燈も影ほのめきて、何となうものすごき夜、瀧口の妻貞子は何に心とられてか、すゞしき眼を見はり、柳ともたとへつべき姿、いかめしう、よそほひて、文やうのもの、さら〳〵とかきおはり、そをとりそへて、かたへにいねし五ッ斗のおさな子のひる着枕上へもてきて、朝な〳〵目ざまし艸にしならし、手遊びの品々をも、たやすく目につくべき所にとりならべ、あたりに目くばりて大きやかなるカバン手に持、十時近き時計の針かへりみて奧の間より客座敷へひそかに立出、玄關へ下りたち、ふと何か思ひ出、立かへらんとする時、錠口の方にひそやかなる聲して

「奧樣お肩掛はこちらにと立出る女、裾高く端折、大きやかなるふろしき包、片手襷に背負ひて、後より奧がたにフワときすればふりかへりて、

「松かへ、

松「先ほど旦那樣から御書狀がまゐつて後、御樣子を伺がつて居ました、どうぞ私くしも御連れ遊ばして、御忘れものゝ御肩掛も御頭巾も持てまゐりました

奧「御前にいつてもらへば、力づいてなほ心丈夫、では御隱居樣の御目ざめのあいうちに

二人連立玄關口、ワッと泣立おさなどの聲におどろき、ふりかへりて

奧「旦那樣よりの御文を封じこめ、書おきに萬事は申し殘しておいても、あすの夜から御隱居樣の御心配、おもひやられて御いたはしい

松「さうおつしやるもわづかの間、一週間もすぎて後はふたたびおめでたくお歸りに成ませう、サア奧樣御早くまゐりませう、ふみ立る門内の小砂利の音にも心して小門のくゞり戶開けんとすれば、又も泣立おさなどの聲

奧「また泣止まぬか、御隱居樣が御目ざめにならう、申上げて旅だつは安い事ながら、必御とゞめ遊ばす事と今夜しのび出る心のせつなさ、お侘は歸りて致します

と、たぢろく奥方を御松は引立、あとに心は殘しつゝいづくともなく出行ぬ

✦ ✦ ✦ ✦ ✦

年の頃は二十七八頭巾まぶかにかぶり、肩掛に身うちおほひ、雪まだのこる山中をあと押の車はしらせて先に立にしたがふは、二十斗島田髮の根ゆるびて、うしろざまに成たるに、びんの毛ほつれかゝり、ゆたかにくれなゐを帶たるほうゝつ山風のさむきをものともせず、心こゝにあらねばか、取つくろはぬ躰の氣やすげに見ゆるに、車夫はこと更うちとけて、

車「御女中さんへ、御まへさんは强勢おもいや、これじやア二人前の賃錢を御もれへ申してもいゝわけだ、アハ…………

車「さうとも〳〵ナア牛、どうでへこの次のたて塲で一杯のましておもれへ申しねへ、ヤイはなアだれだへ、馬カ、一ッ奥樣に御願へ申せよへ…奥樣どうぞ、もう三里斗です一ッ御思召の所を、もうわづかの所で…………

馬「奥さま、ひどい道でムい升からどうぞなんで…………

頭巾の端を手に持てふりかへる奥方の容貌、面長にして目におかしがたき光をおびたれど、常は睫長くて、はれたるやうなるに愛敬をふくみて、見えつべく、口もとしまりて、鼻すぢ通り、眉うすからぬ方にて下ふくよかなるは、雪間に咲初し梅の凛として近付がたく、しなたかきにもたとへつべし

奥「おまへ方、さつきこの立塲までの賃錢にいそぐといふ約束で增まで上げたじやアないか

馬「まし〃ましをいたゞいたかへ牛

牛「ウンニヤ、おれアしらねへ

馬「奥樣御笑談をおつしやつちやア、エへ…わつちらのやうなものを罪ですぜ、どうぞ、そんな事をおつしやらずに、何一圓斗りでようがすので…………

奥「實におどろくねへ、おまへ方はそんな事をいつちやアこの街道を通る人達をいたぶるのかへ、さつきあげた御金は今度仔細あつて旅をするんで番號をおぼえて居るから、懐にあれば直にしれるよ、だがそんな事をいつてもし方がない、サア早く御曳きよ、さうして車を止めてしまつちやア、しやうがないじやアあいか

車「そりやアひけとおつしやりやアひきますが、そのいまの御咄がつかねへじやア、成程こいつらア、ものおぼえがわりイ

からですが、さつきの圓札アわたしが持てゐます、此頃の撰擧さわぎ、人の一人も擲りャア、四圓と五圓になるといふ事を聞て東京から稼ぎにきても、僕とか君とかいふ書生さんのうれ口がよく、仕方がなくつて又車曳になつてゐる、エヘ…車夫なんてへものはわからねへもんでムい升が、馬や牛の樣ナ街道稼ぎたア、ちつとちがひますからチ、どうして御客樣をいたぶるなんて、そんなこたア致しません、たゞ一杯のましていたゞきていと願つた斗りてムい升

松「車屋さん〳〵おまへ東京の人ときけば咄しがわかつていゝが、そんな法外な賃錢をとらないで、早く御ひきなさいヨ、御酒をのまないでは車がひけないといふわけもあるまい

車「イヽへ酒がなくちやアひけません、なにわづか斗の事つたア、ヲヤ〳〵、日が暮さうだ、ヲーおつかねへナア

馬「奥樣へどうぞ今東京の奴がいつたやうに、どうぞ思召で、なに一杯いたゞけば一走りでムい升

奥「どうしてもお金をやらなければひかないといふのだチ、これが他の事ならともかくも、さつきから御酒斗のんで、其上のんだらもうひく事は出來まい、御酒をのむといふならこつちも上げる事は出來ない、さつきこゝ迄の賃錢は拂つてあるからこゝで下ろしておくれ

松「奥樣それがよろしうムい升、この頃のさわぎのも中、御ひろいの事もあらうかと御草鞋を買つておきました、サア御下り遊ばしませ

と二人共飛おりるやうに下立てば惡口雜言なほ吐きつゝ其儘車をひきかへしぬ一人の車夫はあとより追つきて車を持きたり

「奥樣〳〵東京の奴は氣が早くつて、さつさといつてしまひました、どうぞ歸りでムい升から、又何今に一ツ見つけますからあなた丈けでも

奥「あたしの行方へ歸るから荷物丈のせていつてもらはう

車「へイ〳〵何御一人位まだのれます

と追從いひて年輩なる車夫一人、あとより從がひくるに、なれぬおゆみはかどらず、日くるゝ頃さしかゝりし松並木ねぐらもとむるからすの聲もたえて、四日斗の月中空にかげうすうほのめき出ぬ。

雜録

妾が良人ビーチャル氏（一）

ビーチャル夫人　手記

箒掃と勤務

わがちいさき愛兒はつねに身のほとりにつきまとひ家には別に下女といふものをゝかざればわれは日曜ごとにたゞしく教會へ行くこともならず昨日はなにがしの會わり今日はなにがしのあつまりありわれにも來ずやなど親しき人よりいざなはるれど良人とゝもに左るたのしき集會に行きしことまれなりことに熱といふ持病におやまされ人中にて寒氣の起りしもいくたびか左はあれどわれはこの身につける不幸を眼鏡としていや深くビーチャル翁の性行を見き翁の書齋とわが勝手とはわづかに壁一重をへだてしのみなれば翁が讀書の聲または落筆の音つねにわが耳の底に殘りぬ翁はとき〲壁を叩きまたは口笛など吹きならしてわれを喚ぶしるしとはなしけり左ればし洗濯箒掃のもなかにてもわれはそこ〱に四邊をとりかたづけ翁のまへなる椅子によりて其きかせまほしと思ふものに耳そばだつるを常の如くになしぬ斯て人の聽く説教などはわれまづ之をきくのおりすくなからず左はあれど箒掃の業にいそがはしく忙中の閑を得てかゝる學問に身を入れざりしことと後のほぞをかむ種なれど知りて得なさぬとは人のおろかや

家事のてだすけ

われ例の持病にてうち臥すとき又は家事のつねならず忙はしき折からには翁つねに喜びてわがてだすけをなしぬ思ふに翁のごとき身をもちてうれしげに家内のものゝたすけとなるとと翁のごときは世にまれなるべしわれうち臥してあるときは雜巾をこそもたね皿をこそあらはね其他よろづにつけて甲斐〲しくわれを助けぬあるときわれ例の寒氣にたえがたくて燒きかけし「パン」もそのまゝになしおはれ夕方よりは知己のもの客にも來むにとあせるほどに身のくるしむことはなはだし折しも翁勝手に來りて。痛く苦むと見えたりその「パン」はわれ燒きて見むといふわれあまりのくるしさに戸のかたへ身をもたせかくしたまへかくしてはこげなむなどいひけるが翁は調べ物をもち來りて勝手の「テーブル」のうへにおきつ且讀み且「パン」を燒きやがて燒けたる數々を見てこれはめ

でたかりけりとぞよろこばれたる左れば翁は來る人ごとにこれはわが燒きたる「パン」なり味のよからずやなど誇られしわが病めりしとき翁のかひ〴〵しく助け給はりしことつねに翁が生涯の笑柄とはありぬ

花間の逍遙

われら「ローレンスブルグ」に住ひしときは花をやしなふべき尺寸の地だもあらざりし左れど翁の家を出るやつねにその手に幾把の花をたづさへて歸りぬこれによりてわれらの室家には花のかほりのたゆることなかりし其後「ローレンスブルグ」を去りて「インヂヤナポリス」にうつりしにこゝは庭園ひろやかにしていたく翁の好めりし花間の逍遙に適ひたり。あはれわが持病は熱と寒氣とにて翁の持病は迷花なりけり。かの「チエリー」の花の春風に吹かれたる「ローズ」の枝の秋雨にぬれたるこゝに翁があはれを催すの種なれや左れば花にそゝぐの晨樹につちかふの夕そのゆたかなるこゝろは天地の美にむかひてそゞろに無限の感慨を飲みけむこれよりわれらの花園は世に知られてかしこよりも花の種をたまはれこゝよりも花の種をたまはれと日に〳〵諸方より音信のなきはあらざりけり。こゝにありしときわれらのつとめといふは朝起の一德なり左るはわれらの持病によりて日あたりの熱きところに働くことのよからねばと朝まだき日いまだ出でざるころより燈を吹て翁は讀書に餘念なくわれは水仕事などしつうらゝかにのぼる朝日を邀へては共にいでゝ花間の露をふみけりあるひはちいさき愛兒の目をさましたる折その手をひきてわが家の周廻なる花畠にうかれ翁はみずからやしなひたる紅白をつみて愛兒に與ふるをたのしみとなしぬ。あるひとビーチヤルのごとき巨人にしてかく迄花をめでつることのおろかならずやと問ひければ翁笑をふくみておろかとは何事ぞや君花を見ることいよ〳〵多くして心をなぐさむこといよ〳〵多からむ試に一年のあいだ花を植えよ君またかゝる問をふたゝびせざるべしとぞ左ればこの趣味に化せられてやこれよりそのあたりには花を植るもの日に多くわれらが「インヂヤナポリス」を去りし頃にはこゝを花の里とまで人の言ひにき

「自然」のうちに說敎をもとむ

ビーチヤル翁が花をめで「自然」のうちの美を好めりしは其天性にいでたるものゝごとし幼時「アムヘルスト」の「樂山」

にまなびしころより誰一人として翁が花をめでつることを知らざるものなく花を植えて倦まざりしこと十二年なりきといふ。げにや翁の生涯の間好めりし安息の地は花園にてありき左ればわれらの住ふところには花またこれにともなはざることなく常にこれをやしなひておろ〳〵の俗愁を拂ひけり。「インヂヤナポリス」にありしや翁の教會事業はいたく繁雜をきはめあるひは時ならぬ慣興をきたし毎日毎夜かしこに集會ありこゝに集會ありとてそのいとまなきこと織るがごとくこれら集會の後には必ず質問會といふものありあればいかゞこれはいかゞなどしきりに翁のおもはくを叩きぬその間翁は田舍のかたを馳けめぐりて宗教家のために力をそへ又は地方の招きに應じて數日のあいだ教理の連戰をこゝろみ斯て一年も經し程にかゝる劇勞のためにや顏色さへいたくおとろへたり已れはなはだ之をうれひ今は身の方向をかえてその勞を養ふべきにといひけるに翁うち笑ひてなどわが勞をなぐさむべきものなからましやわれは花に息ひてこゝに天地の「ライフ」を知る身のつかれや世のわづらひや花に對してはなにかあらむとぞ。

詩篇第四十六篇（押韻）　雲峯生

一　わがかみの　みちからつよし、
そがみやは　わがとりでなり。
世のなみかぜも　かゝらじな、
やまたかみ　ゆきなやむとき、
たにふかみ　おちはつるをり、
つねにたすけむ、　わが身をば、

二　地震は　なるかみのごと、
地球は　くづれはつるも、
われやすらけく　ありぬべし。
わだづみの　うみのなかまで、
あしびきの　やまこえうつれ。
われはいかでか　おはるべき。

三　たちさはぐ　なみいとあらく、
うなばらは　なりとゞろかむ。
われはかくても　うごかじな。
あふれ出る　みづうちよせつ、
いとたかき　やまもうごかむ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四
されどわざわい　あるべしや。
ゆかしくも　はなこそにほへ。
きよらかに　みづこそそゝげ。
かみのみやこは　うるはしき。
たのしげに　とりなきわたり、
こひつじは　むれあそぶめり。
かみのすみ家は　いと聖よき。

五
世のなかに　たゞひもあらじ、
たましきの　かみのみやこに。
千代も八千代も　かくあらむ。
あけわたる　あさぼらけより、
たえまなく　かみまもるめり。
みやこやたゝむ　うごかなく。

六
もろびとら　やいばをまじへ、
よろづたみ　みだれさはぎて、
修羅のちまたと　世やならむ。
攻め合はむ　くにとくにとは。
地にみたむ　うきわざわいは。

七
かみのいかりに　世や亡びむ。
ちよろづの　あだはせまるも、
たゝかひは　いかにしげくも、
われに敵對らむ　ものあらじ。
ばんぐんの　ヱホバはかくて、
あたをせく　しろとこはなれ。
かみのみちから　いとつよし。

八
こちかぜに　なみたちわかれ、
うなばらの　みづはかはきて、
あまたのひとぞ　すくはれぬ。
おもひ見よ　かみのみわざを。
たゝへなむ　そがみさかえを。
くすしきことは　世にみちぬ。

九
矢さけびの　こえたえはてぬ。
たゝかいの　おとしづまりぬ。
いくさぐるまも　やかれけり。
みだれにし　世はおさまりて、
たのしかる　日とこそならめ。
くすしきかみの　みちからに。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十「こゝろして　われをあがめよ、
いやとほき　地のはてまでも。
もろ／＼の　われ、神なりと　知りねかし」
くに／＼の　ひとやたゝへむ。
たみやうたはむ。
そがみさかえぞ　かぎりなき。

十一
野のすえに　ゆきまよふ日や、
やまおくに　さすらふあした。
かみはわが身と　ともあれや。
うちよする　あだなみあらみ、
うきなやみ　せめよするとき、
かみはわが據る　しろなれや。

附言　われ聞く詩篇の原作は韻ある詩なりと、之を諸邦の語に譯するに當り、皆其想を取て歐文に換へたり、此故に英譯或は獨逸譯を見るも亦我邦文に譯せるものも他の歐文とは少しく異る所あり、蓋し詩形を用ひて譯するの難きが故に斯くはなしたりけむ、西洋の詩人殊にミルトンとロングフエルローとの如き之をあきたらぬことゝや思はれけむ詩形を以て之を譯しき、余常に彼等が譯の妙なるに服し、愛讀して措かず、今彼等にならひ、余も一篇を韻語もて譯す。投じて以て同好の人に示す。

近來余思へらく一篇を同じ每行句格もて綴らんは同じ調子の音樂をきくが如し始のほどいたく聞こゆべきもやがて倦てきこうかるべし、如かず西洋の詩の如く折ふし變化を加ふるにと、詩に於てはもと每行一定の句調を用ゆべき定めあれど詩人は之を活用して種々の變格を作り、以て讀者をあかざらしむ、其最も著るしき例はシエレーの雲雀の篇に見るべし、余は今五七の調を用ひ、三行目に七五を加へて單調に陷らざらんとつとむ、尙今後常に種々の句格を交へて西詩の如く多くの形躰を用ひんと欲す、精細なる愚見は今盡し難ければこゝに省きつ。二月祭前二日

疱瘡の話（下）

かくて此種痘法我國には嘉永二年七月十三日蘭醫モントニッケン氏長崎に齎し來りし報あるや佐賀の藩主鍋島閑叟公には衆に先ち侍醫大石良英氏に取調を命ぜられ仝年八月廿三日御嫡男淳一郎君（今正三位鍋嶋直大侯）に種させられ仝九月江戶表御參勤長崎より痘苗を御取寄有り伊東玄朴大石良英兩氏に命じ令姬貢子君にも種させられ尋で其苗を諸家に分與せられ玆に始めて大に廣まるとを得たり。

明治聖代に在りては此法厚く御保護あり夙に種痘規則を頒布せられて大に普及をはかられしかば今は浦々山家迄行れざるはなし故に天然痘に罹るもの極めて稀なるに至れりコハ是れ御聖德とゼンナー氏の功德相待て萬民幸福を全ふするに至りしものと云ふべし回顧すれは二十有餘年來種痘の爲めに我同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

胞幾百万人の性命を全うせるや計り知るべからす向後幾万歳幾億兆万人の性命を保救するや猶計り難し實にゼンナー氏の功德廣大無窮なる他に比すべきものあし吾人一日も忘る可からざる事共也。

前述せし如く我日本は千百有餘年來疱瘡の流行地たりしも種痘法行はれしより以來殆んと其病根を絶ちし如くなりしが今又昨冬より所々に流行すと聞く是れ全く種痘の怠りより生ずるもの也（本年流行の天然痘は或地方の如き未種痘者より却て種痘濟のもの多く而して年齢に至ては十五年以上卅年未満のもの比較的に大多數を占めしとこれ顧に種痘は一回乃至二回接種せは終身免病し得へきものと心得幼時に一二回接種し其儘捨置きし結果と一は自ら種痘濟と稱するも其實濟否不分明なるものあらん且今日の如く醫術進歩せさる昔日に於ける種痘術に至ては多き中には或は不完全至極の接種法行はれし部分ありしやも亦未た知るへからす初度の接種には充分綿密に施術するも痘痕顯然たる再種者の接種に至ては術者も自ら疎漏に失するとは往々耳にする所也原來種痘は毎五年或は七年に必す接種し老年に至る迄怠らす接種すへき筈のものなり故に政府も積極的に嚴重なる取締規則を設けて三回接種濟迄干渉保護せり然るを法律の精神を誤解し只三回接種し終れは夫にて用なきものと心得甚しきに至ては一春秋間に三回接種を試み最早是にて安心なりと其儘放任せしもの少なからす是等の如きは最初の一度を除く他は皆無効にして全く徒勞に屬するもの也又彼の面倒なりとて一回も接種せざる如き者に至ては論ずるに足らず猶一言せんに種痘濟のものは假令天然痘に罹るも重症にして死に陥り或は恢復後瘢痕點々醜顔に變ずる如きは斷して有るへからす畢竟するに昔時の疱瘡の恐ろしさを知る人次第に減じ等閑に付し去りし結果に外ならす茲に老人拙き一篇を草し正に目撃せし昔時疱瘡流行の有樣一斑を述へ聊か豫防の一助たらんとを禱る。

因曰種痘法の如きは之を小にしては一人一家の幸福を延て天下國家の福利を増進すると莫大也故に之をして富國强兵の一要素と云ふも亦何の不可かあらん夫れ然り然らは則此貴重なる種痘法發明者の功德に報ゆるの擧なくして可ならんや然るに世人其恩澤に浴し不知不識の間に性命を保ち乍ら未た嘗て何人の發明なるやをも問はさるもの少なからす嘆す可きの至也嗚呼大和民族にして誰れか報恩の情なきものあらんやこれ種痘法は何人の發明によるものなるや其由來を知らさると偶々之を知る者あるも其之に報ゆる機なきとに因するならん於茲乎不肖老年なるも不顧一昨年來卒先發起者となり種痘發明者エドワードゼンナー氏の功德を普く全國に訴へひろく同意者を得氏の一大紀念碑靈社を東京表に建設し永く其功德を表彰し以て其恩義に報ひ吾同胞の正義を立ると同時に種痘の忽にすへからさるを知了せしめんとを企圖し専ら之れか計畫中目下天然痘所々に流行すと聞感慨措く能はす老人の常として終夜碌々眠も遣られさるまゝ拙き稿を起し釋迦に説法の嘲を甘んし貴重なる女學雜誌の餘白を汚すとはなりぬ。

明治廿五年二月

静岡縣下濱松町
種痘發明者紀念碑建設發起人　牛田友賓

引

雪の朝、われ九段坂上より百萬の甍忽焉白ふなれろを觀て長歎す、あゝ、一夜天より下り如此く万人の心を淸くするものなからずやさ。他に詩操なし。今二君の寄書を得て、文士の閑日月を羨やむさ云ふ。

しのぶ、引。

京城の雪を記する文の序

全一の小樓に起臥し、此雪に遇ふ、共に見る所を記して相對照す、亦是れ相發明するの道なり。愛山先づ成る輕々筆を着くるの癖あればなり、蔽日後れて成る、古語人を驚かさんと欲すればなり。

明治廿五年二月十九日　愛山生題す

○京城の雪の朝

愛山生

夏の夜に蛾といふ蟲の紙燈を撲つ如く欹々として瓈窓に音のしければ我は早雪あるべしと、蓐中に、推しぬ。盖昨夜我許に二人の友訪ひて一人は泊り、一人は還りしが、共に微雪催すべしと云ければなり。我は蓐を蹴て起ちぬ、我は駿河の暖地に人と成りたれば雪は我には珍しければ、帝都に在るときは雪の爲めには屢々早起するなり。過日の大雪には我は山の手の學校に寓せしが其朝いち早く起て、少年の群に加はり、雪戰氷すべりの遊戯に餘念あかりければ、爾は七八年も若くなりぬと年長じたる友は笑へり。思ふに違はず、白きものは、早曉の薄瞑の中に癲ひぬ。是れ紫宮の玉柱を屑りて空中より擲ち來る者耶。天鵝の毛を落して雲間より振ふ者耶。須臾にして夜は都と共に全たく覺めたり。我窻前に横はる大道には既に縷の如き一條路開かれてあり。さては、此雪にも晨がけて生業にいそがはしき人はありけり。

一年、我祖母の東京の大雪を歌ひけるは、

限りなき武藏の野邊もうづもれて、
　富士よりつゞく今朝の大雪。

今日も亦、帝都を壓する此雪と千秋長に消へざる雪際のものと一大白布の如く一つになりて、我生長せし田舍と共に我今齷齪せる大市とを包むなるべし。雪よ爾は昔しの魔女が掌中に握りし手巾の如く須臾にして百萬の生靈を蔽ふべき天幕となれり。

我寓する所は、御構を隔てゝ、遙かに禁門を拜むべし。されど今日は只電柱、松樹なんどが薄墨の畵の如く、見ゆるのみ其の他は我目より遮られたり。香爐峯の雪の御聲に頓悟して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

簾を捲きまゐらせし當年の才媛今もあるべし。陰陽を燮理する大臣は深雪を犯して豊年を奏しまゐらせしなるべしなんど、思へば賢こし。

雪片の横に流るゝに因りて風の方向は知れて、時々螢合戰めきて一團となりて相追ふに因りて、旋風の折々、荒るゝは知られぬ。溝水常は鏡の如くなれども、今は波の皺よれり。紛々たる六花は此中に消へ去りて痕を止めず、只此方の岸に繋がれし二の小舟のみ、花嫁めきて眞白の帽をば被りぬ扁舟簑笠の翁、獨り釣る寒江の雪。詩を詠まざるも何ぞ憾まん其身實に詩中の人とあればなり。

昨夜泊りし友は、今朝も職務を有する者ありしかば、急ぎ朝飯を喫して出行けり。我は璢窻より彼後影を眺めてありしに、彼は我方を顧みて、手を擧げ、アと、一笑せり。無罪なる、此叫び飢雀の群を驚かしけん、其幾隻の影は我目を掠めて去れり。

此早朝、猶霏々たる中に我は竹杖もて其深きを計りしに五寸には餘りけり。手洗水つかふとて小庭に出でし頃は早や六寸を超へたり。後にて宿の主人の人に語るを聞けば近年稀なる大雪にて一尺に近しといふ、我祖母の富士よりつゞくとよまれしは明治十六年にて此時一尺の餘積りしといふ今を去る九年前のことなり。

批評

伽羅枕及び新葉末集（第一）　透谷

一は實を主とし一は想を旨とする紅葉と露伴。一は客觀的實相を偵び一は主觀的心想を重んずる當代の兩名家。紅葉は伽羅枕を、露伴は辻浄瑠璃を、時を同ふして作り出たり。此二書に就き世評既に定まれるにも拘らず余は聊か余が讀來り讀去る間に念頭に浮びし感を記する事となしぬ。

余は二作を讀み了りける後奇しくも實想相分る、二大家の作に同一致の跡瞭然見る可き者あるを認めぬ。從來の諸作は分明に紅葉をして細微なる人情の觀察者たらしめ露伴をして逸調の奇想を吐く者たらしめたるに、不思議にも伽羅枕及新葉末集に至りて兩家の意匠の、其外部の形式の如何に拘らず陰然相似たる所あるが如し。

紅葉の佐太夫は女性にして露伴の道也は男性なり。然れども兩著者の意匠中に入りて其奥を窺へば佐太夫も道也も男女の境を脱して混沌として唯た兩主人公の元素同一なるを認むべきのみ。佐太夫とは歴々武士の落胤、道也とは名家釜師の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なれの果て、其生立を開けば彼も母一人此も母一人、彼は娼家に養はれ此は遊蕩と呼ぶ孀母に養はる。彼は賣色塲裡に人と成り、此も好色修行に身を抛ち、彼も華奢豪逸を以て心事となし此も銀むくの煙管を路傍の狗に與へて去るの傲遊を以て快事となす。此等の同致を列記すれば際限あらじ然れ雖余が此二作の意匠相似たりと言ふは此等外部の同致のみにあらず、作家着想の根本に入りて理想の同致あるを認めたればなり。

若し推して言ふ事を得せしめば紅葉は露伴の長所に、少くとも乘入らんとせしなり、而して露伴も亦た對髑髏奇男兒等の鋭利なる奇想を廻り遠しとや思ひけむ紅葉獨得の寫實界にまぐれ込まむとの野心を抱きしなり。故は伽羅枕は紅葉從來の作に見る可からざる奇氣を吐けり而して新葉末は露伴が登壇以來見せし事なき人情の微妙を細察したり。然れども余は兩作家の位地全然轉倒したりと言ふにはあらず唯だ紅葉は露伴に近づき露伴も亦た紅葉に近寄り、而して紅葉は紅葉の本躰を備へ露伴は露伴の實色をあらはすと言ふのみ。某評者の言へりし如く佐太夫の生涯は江戸の苦海に沈みし後前半部とは全く異れる人物となれり。又た同評者の言はれし如く所々に時代違ひの如き者あり。要するに彼が其實娣に會ひて後の心想は全く變じて、前半部若し紅葉獨得の寫實筆法なりせば後半部はむしろ理想――遊廓内の女豪傑を寫す筆法を變じ來りて往々にして有り得べからざるが如き事實を寫し出す事他の諸作に比して不似合なるを覺へしむ。究竟するに紅葉は實を寫す特有の天才より移つて佐太夫なる、或意味に於ての理想的傳記を書き出たるを以て、平常の細微巧麗なる紅葉の作を讀み慣れたる眼には何となく琴曲を欲ふ時に薩摩琵琶を聞くが如きの感あるなれ。余は佐太夫を以て紅葉の理想なりとは斷ぜず唯だ其性質の天晴傾城の神とも言はる可き程なるを見て紅葉は寫實の點より墨を染めたりと言はんより寧ろ理想上の一紅唇、「兩刀を横へていかめし作りの胸毛男を、いくたりとなく隨伴に連れたる娣が身を」眼下に見下さんほどの粹の粹、廓内にての女豪傑になつたる佐太夫を主觀的に書き出たりと見るは非か。

去つて新葉末集を讀め。風流佛一口劍等に幽妙なる小天地想を嘔ひ、一種奇氣抜く可らざる哲理を含みたる露伴の詩骨

は徒らに「心機靈活の妖物」なる道也の影に痩せさらばひぬ。道也は實に一妖物なり奇物なり露伴にあらずんば誰か能く斯般の妖物奇物を擒にせん。平凡無癖を以て愚物なりとし、一癖あるにあらざれば談ずるに足らずとする露伴に道也あるは無理ならぬ事なり。蓋し理想詩人の性として必らず人生を其或る一面相より觀察する者なる故に、道也が奇男兒を作りたる詩人の懷裡に宿りたるは無理ならぬ事なり。然れども道也は理想上の人物として、佐太夫と共に心機靈活の妖物として遊廓內の豪傑として、粹の粹として、遂に佐太夫程に妙ならず、理想家としての露伴が寫實家なる紅葉のこの種の理想に於て少しく席を讓りたるを惜しむ。然れども元よりこの種の理想に於て優劣を較するの愚を、われ學ぶ者あらず、若し夫れ明治の想實兩大家が遊廓內の理想上の豪傑を畫くに汲々し我が文學をして再び元錄の昔に返らしむる事あらば吾人の遺憾いかばかりぞや。

　この兩著書に於て二大家相邇近したりとは前に述べたる所なるが偖て兩著書の相邇近したる中心點は何處に存するや。言を換へて云へば兩著書が小極致とするところは何れにありや、何れにありて同致を見はすや。曰く兩書共に元錄文學の心髓を穿ち、之に思ひ思ひの裝束を着けて出たるところにあり。或人は此書に於て露伴の文章漸く西鶴を離れて獨創の躰を出せりと言ひしが、文章に於ては或は然あらんかなれども其想に至りては却て元錄を學ぶこと前の著述よりも多きに似たるを怪しむ。伽羅枕が紅葉の一代女にして公けに元錄を代表する事批評家既に言へり。われ二大家を以て元錄作家の摸擬者と貶する者ならず、別に天眞の詩才ありて存することを我が深く二大家に信ずる所なるが、可惜此二書の世に出たるより余をしてかねて元錄文學に面白からずと思ひしところを此二書を通じて訴へ出づるの止むを得ざるに至らしめぬ。

　そも元錄文學の輕佻なるは其章句の不羈放逸なるが故のみならずして、其想髓の輕佻なるが故なり。謠曲時代の幽玄なる思想を見ざるのみならず、優美高妙なる精神を失ひたるのみならず、遊廓內に生長したるのみならず、是等の者を外にしても元錄文學が大に我邦文學に罪を造りたる者あり、其を如何にと言ふに戀愛を其自然なる地位より退けたる事即ち是なり。戀愛なる者は人生の秘機を說明すべき妖女にして、戀

愛を除きたる曉には恐らく美術も文學も價なき珠となり果つべけん、彼の輕佻なる元祿文學は遊廓內の理想家とも言つべき魔道文學者、好し其始祖には何か扱く可からざる一貫の見識ありたりとせんも其相續者摸擬者等の文學上の位地を看れば、恐らく遊廓を以て彼等の天國と見做し、正路を步むの人を愚物視し、人生の大不調子大不都合を見るよりも寧ろ小頑小癖小不調子小不都合の眼を具するを尙び、偏曲輭弱なる意氣より朴直なる野暮の中に隱れたる美を嘲り、至善至惡に對する妙念は殘らず擺脫し去りて只だ慾火炎上の曲りくねりたる一時のすゞしさを此上なき者と珍重す。夫れ戀愛は花なり、造化の花なり、之を碧玉瓶中に見るよりも墨坨境上に見るに美の價あり、然れども去て吉野の物さびたる造化の深き峯のあたりに見るに其美其妙塵垢に近き墨坨の外に勝る事幾倍なるを知るべし。何となれば花は元と造化の天使なるが故に尊きにて、造化の威嚴と妙契とが深ければ深き程其花の妙は尊きなれ。戀愛も亦た斯くの如く造化の妙契と威嚴に遠ざかるところには、如何に豪逸奢美を粧ふとも其美其妙は枯瘦して、濱の砂地に生へたる小草にあはれ氣に咲く花の如けんかし。

遊廓は即ち砂地なり、其中に生へたる花は即ち遊廓的戀愛なり、美の眞ならず自然ならぬ事多言を用ひずして明瞭なる可し。さりとて元祿文學が遊廓內の事のみを主としたりと言ふにはあらず、然れども元祿文學者の戀愛に對する思想は好し純然たる遊廓外の素人を寫す場合にも宛然として遊廓的戀愛即ち世に所謂好色的戀愛を主としたる事實は一點の辨析を容るの餘地なかるべし。思へ、好色と戀愛と文學上に幾許の懸隔あるを、好色は人類の最下等の獸性を縱にしたるもの、戀愛は、人類の靈生の美妙を發暢すべき者ある事を、好色を寫す、即ち人類を自隨落の獸界に追ふ者にして眞の戀愛を寫す即ち人間をして美を備へ靈を具する者となす事を好色の敎導者となり通辨官となりつゝる女士は即ち人類を驅つて下等動物とならしめ、且つ文學上に至妙至美なる戀愛を殘害する者なる事を。

思潮白波

神道

三月七日の「日本」は國風維持要さ題して云く、社會已に特異の發達を爲して、特異の國をなす、隨て其國異の典禮なくんばあらず、之を名けて國禮さいふ、西人は名げてナシヨナル、ライトさ稱せり、其義一なり、我國の神道なるものは即ち此國禮の名なるなり……然るに世に曲學異端の徒あり神道の國禮を竊み、之に托し以て一宗教を造り且つ作らんとを謀る……神道なるものは、我國の禮なり、敬の表なり。信の徵には非るなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○細川潤次郎氏

二月廿五日發の教育會雜誌第百十四號に、細川潤次郎氏が、府縣學務官參觀の節演述したる大意の筆記あり、地方の各女學校と交通の事、來年より女生へ給する月額を減じて五圓許となす事、我輩執る所の女子教育の方針は、只淑女を養成して他日の内助たらしむるに在りと云ふ事、中學校に女子部を置くよりも各地に高等女學校を置くべしと云ふ事、などを說きたり。

○日本基督傳道會社廿四年度收支決算報告（一月より十二月迄）

（基督敎新聞所載）

收入の部

一金六千七百四拾六圓九拾貳錢也　總額

內譯

金四千六百貳拾圓也　米國傳道會社

金貳千百貳拾六圓九拾貳錢也　日本各教會

內

金千百拾八圓四拾七錢七厘　正員社友寄附金

金貳百拾貳圓五拾九錢五厘　教會名義の分

金六百五拾三圓〇三錢八厘　負債償却に付臨時寄付の分

〆

支出の部

一金六千五百貳拾圓拾壹錢也　總額

內譯

金四千四百壹圓也　月俸額

金五百八十五圓四拾壹錢六厘　旅費額

金四百三拾圓四拾貳錢　雜費額

小計金五千四百拾六圓八拾三錢六厘

金一千百三圓貳拾七錢四厘　廿三年度不足額

〆

差引金貳百貳拾六圓八拾壹錢　過剩

（備考）廿四年度支出豫算

一金五千四百八拾一圓九拾五錢五厘　總額

○禁酒せざるを得ざるなり

人口十萬に對し禁酒家と非禁酒家とが各年齡に於ける生殘比例は左表の如し世界に有名なる英米國人が異口同音に禁酒は富國强兵の基なりと稱道して止まざるも亦宜なりと謂ふべし

（私立衛生會雜誌）

年齡	禁酒家	非禁酒家
二十五歲	九五、七一二	八一、九七五
三十歲	九一、五七〇	六四、一一四
三十五歲	八六、八三〇	五〇、七四六
四十歲	八二、〇八二	三九、六七一
五十歲	七〇、六六六	二一、九三八
六十歲	三六、三五五	一一、五八六
七十歲	三五、二二〇	五、〇七五
八十歲	一三、一六九	八七六

○日本人の氣質

イーストレーキ氏が、東京スペクテートルに、日本人の氣質を論じ、從來ヂクソン氏の文の外に眞を得たるもの少なきを歎じ、アーノルド、ノルマン二氏の謬を笑ひ遂に云く、

The Japanese cannot be called a beautiful race. We have seen exceptions of Lanly beauty and occational rare glimpses of female loveliness. But these are few and far between. The average Japanese is a cleanly, temperate, hardworking person, with progressive tendencies and remarkable assimilative and imitative powers. We have indeed, a firm faith in the Japanese people as such, and despite bitter experiences frequent deceptions, and hollow Friendships, believe the race capable of attaining a much higher and nobler standard.

○昨年中最良の書

北米評論雜誌の問に答へ、昨年中の最良の書を指摘せしは左の如しとぞ

Sir Edwin Arnold.
"La Bête Humaine" Émile Jola.
Gail Hamilton
"The Modern Iphigenia."
Miss Agnes Reppler.
"Intentions," by Oscar Wilde.
Mrs. Amelia E. Barr.
"Life and Letters," Rev, Adam Sedgwick.
Prof. C. A. Briggs.
"Origin and religious contentes of the Psalter, in the light, old Testament Criticism and the History of Religion"
Canon Cheyne.
Julien Gordon.
"Justice" part fourth of his "principles of Ethics" by
H. Spencer.
Dr. William Hammonal.
"Century Dictionary"

女報

あい子編

●常宮周宮兩殿下　目下庵原郡興津町清見寺御料地に滯在中なる常宮周宮兩殿下には、去月二十九日海上より倉澤へ御遊覽の爲め赴かれ直ちに還啓あり、又去る一日は伊佐布の梅を御巡覽あらせられ二日には淺間神社へ參詣として靜岡に御來着ありたり。

●辭令　五級俸六分ノ一下賜　東京音樂學校教授　瓜生　繁子

●殊勝の母　穗波郡飯塚町大字菰田農福濱嘉作の妻ちよ(四十四歲)は、四人の子供を相手に家業を助て餘裕の家產とて無けれとも、次男作市(十三歲)を飯塚高等小學校に通學させしか、近頃の不景氣に依り家事兎角不如意にて退學の止むを得さるに至りしかはちよの悲歎一方ならず、緣家に泣き込みて再び入學の出來得るやう奔走中、全校教員古田虎次郎氏も其學才を惜しみ雨を侵して竏が家を訪ひしに、母は兩眼に淚を浮へ假令朝夕の衣食を減しても小學科丈けは卒業させたしとの懇願に古田氏も大に之を憫み種々盡力を遂げ、再び出學するに至しかはちよの悅び甚しく粉骨碎身の勞をも打忘すれ、目出度作市の卒業を待ち居る由鄙に珍らしき賢母と云ふへし(福陵新報)

●貞婦の賞與　米澤大字下矢來町大石誠吉母すゑは平素孝貞の志厚く、殊に夫及舅姑の相尋て痾に罹るや看護周到且家事を負擔し幼兒を撫育し數年の間志操一日の如し、洵に奇特なりとて、長谷部山形縣知事より賞金五圓を下賜せられたりと。

●眞看護婦逝けり　東京府士族藥劑師林健氏の妹安達徵音女史(東京養育院幹事安達憲忠氏の夫人)といへるは、嚴に東京慈惠醫院の看護婦と爲り精勵勤勉其務に服し餘暇英學を修め署々英語に通ず、明治十八年高木院長の撰擇する所となり院の貸費生として英國に留學を命ぜられセントトーマス病院附屬看護婦學校に入り在學三年業を終へて歸朝し、慈惠醫院看護婦長となり專ばら看護婦養成に從事し居たるが、一兩年前より肺患に罹り爾來高木國手等治療を受くるも更に其驗なく、自ら「ツベルクリン」の注入を國手に乞ひ前後之を受くると三回に及びしも其効なく、終に客月二十八日二十四歲にて死去したりと

●ポーランド婦人　ポーランド國の婦人は本年中は全國擧て黑裝を爲すとを約したり是れポーランドか其の獨立を失ひしより百年に該當するが故なり

●ベル夫人の來朝　米國シカゴ世界博覽會婦人館員ベル夫人は、同館長パーマー夫人の委任を受け同館計畫の趣旨を發表する爲め、去月十七日桑港發のチヤイナ號に搭じて我國へ渡來したり、夫人の眞人はシカゴ某商店の依賴を受け日本雜貨買入の爲め、先頃より渡來し横濱へ滯在中のよし

●キンケイド夫人(Mrs. Tary W. kincaid)　米國桑港高等女學校長たる同女史は、二十五年教育に從事し此校にあると三十四年、校長たると三年にて教師としては非凡の才あり秀名赫々たりしか此度び遂に辭職ありぬ(ジヨウナル、オフ、エヂュケシヨン)

●印度のラマパイ婦人　前年我邦に來遊せられたる印度ラマパイ孃のプーナの邸には、印度の上等社會に列せる寡婦二十六人あり、此れ等の寡婦は九歲より二十五歲に至る妙齡の人にして其の中某孃の如きは七歲の時其の夫に離れたる者なりと云ふ、嗚呼印度結婚の弊習亦極れる哉

●孤女學院　再三本紙に揭載して熱賛を表したる大須賀亮氏の同院は王子元瀧の川村の建築落成の上にて來月上旬移轉の運びに至るべしといふ。

●產婆講習所設置　島根縣邇摩郡大國村大字大國醫師辻俊司外一人私立產婆講習所を設置し同所卒業者は試驗を要せず縣內產婆營業特許の儀出願せしに依り同縣に於て之を許可し卒業試驗擧行の節は衞生官吏立會ふことゝせり

●靜修舍　將官某氏の未亡人細川靜子女史には此程靜修舍と云へる校舍を麴町區有樂町三丁目に設立し專ばら恭儉優美の女德を滿養し傍はら禮式、裁縫、調理等を懇切に教授する由

●勤儉貯蓄の組合を設立せり　此頃群馬縣南甘樂郡大字坂平村は戶數僅に十二三なる小村落なるが其規則の大要は冠婚葬祭等の塲合にも總て酒類を用ゐず又荒廢に屬せる原野を開墾して杉、漆等を植付くる等なりと亦た美擧と云ふ可し

●奴婢奬勵會　露國ワルソーに於て善良なる奴婢を奬勵せんがために一の協會を設けたり、此の協會は二年間能く主人の命を奉じて溫順に働きたる奴婢にして主人が其の品行を證する證書を出す時は相當の賞金を與ふの組織なり

●震災人夫の慘狀　岐阜縣に於て先頃震災の爲めに破壞せし伊自良川の堤防は目下修繕中なるが、右に付同縣救濟本部より派出せし本巢、池田兩郡の男女凡そ二百餘名の人夫は、孰れも震災の爲め家は固より產業をも失ひ目今飢餓に迫りたる者にて、此の嚴寒中身に着けたる者とては單へ物や襤褸のみにて大寒に苦むが上にも、毎日一人前半麥飯七合に赤味噌位を食し、朝六時より夕五時迄も働らき夜は假小屋の內に倦臥するのみなれば、或は寒氣に冐され氣管支炎、肋膜炎、腸胃加答兒等の重症に罹り目下九十餘名も枕を並べ居り其慘狀實に目も當てられずと云ふ

●東京府高等女學校　本月を以て二十餘名の卒業生徒を出す由なり、同校にては從來春季卒業の際は卒業證書授與式は擧行せず冬期卒業の節共に同式を擧行するものなりと云ふ

●好兆　近來女學生の下宿屋住する者減じ小川町警察署管內に於て僅に廿名內外に過ぎずとなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●婦人の實務家　ポーランド國ワルソーに於て運輸業を營む諸會社及乘合馬車貸馬車等諸會社の事務員は悉く婦人なり、而して此等の婦人は男子に比して客に對する懇切事務を執る精密なるを以て大に世人の稱賛を博せりとのことなり。

●英國政界に於ける婦人の勢力　英國婦人が政治界に馳驅するの擧動は頗る活潑にして、現にグラッドストン夫人が會長たる改進黨婦人倶樂部の會員は十万人の多に達せり。

●高齡者の死去　昨千八百九十一年中英國に於て百歳の翁媼四十八人死去したり其中二十七人婦人にして廿一人は男子也と。

●棄兒養育　兵庫縣に於て昨廿四年中取扱ひし棄兒養育に係る事項は棄兒前年より繰越の者官及公費八十四人、私費十八人、計百二人、新に養育せし者官及公費三十三人養育を廢せし者官及公費三十二人、私費三人、計三十五人、年末現在の者官及公費八十五人、私費十五人、計百人にして爲に要せし養育費は官費四百四十七圓十七錢六厘公費四百五十七圓二十二錢一厘計九百四圓三十九錢七厘、私費は目下其調査を缺けり（兵庫縣）●新潟縣に於ける昨二十四年中棄兒養育に係る事項は前年越人員官費十一人私費一人、新に養育せしもの私費一人、養育を廢せしもの官二人、年末現在官費九人私減二人にして此養育費は五十圓九厘なり（新潟縣）（官報記事）

●下婢の拂底　昨年は在方一般に好景況なりし爲め、本年に入りてより府下に出で、奉公せるもの何れも郷里より呼び戻され、若くは婚嫁するもの多く爲めに、昨今頗る下婢の拂底を告げ桂庵は頗る閑散なる有樣なりと云ふ。

●當市藝妓の總計　現員百二十七名にして、内本年一月一日以降昨日に至るまでに新規鑑札を受けたるもの十八人なり（上毛新聞）

●久留米市の置娼妓問題　同市に娼妓を置かんとするの議ありとの風說に接して其置くべからざる理由は、過日の時事小言鐵門生の所論の如くなるが、今聞く所によれば、同地の娼妓設置論者は大に秘密の運動をなし居り、京町の有志者中其二三を除くの外は已に設置論に傾むき承諾したりと云ひ最も教育家は之れに反對せり、又市會議員中には可論者八名非論者七名中立者七名あり、可とする者の說によれば、若し娼妓を設置する時には同市の收入稅に千圓以上を得べく市政上に於て大に得る所ありと云ひ居れども、さる不潔稅に依て市政上の融通を付けずとも他に其方法はあるべしと云へるあり、市稅上の事に付意見もありとのこと也、明善中學校々長及び教育關聯縱横會などは大に其設置を憂へて盛に非置論を唱へ居る由にて、殊に中學校にては多くの靑年を有することに付風紀上大に痛心し居り校長の非論は實に勢力ある由、但し可論者中にも娼妓論を可とするまでにて、其場所論にては一方は今の藝妓町なる新町を可とし、又一方に於ては瀨の下町を可とするものあるべく、右京町小松原の一ヶ所決て衆論を纒むるに至らざるべしといふ、但し久留米市參事會員等は何故か大抵可論者ゆえ到底可の方に決すべき乎などゝ憂へ居る向もある由なり、要するに度々斯る問題の市會に上ぼるは耻辱なりとて市會に出づるまでに消滅せしめんことを欲する人もある由なり（福岡日々新聞）

●娼妓に說法　新柳廓三業取締所にては、去日眞宗大谷派本願寺より本縣の布教師として今回來峽せる伊藤大悠師を招聘し、各樓の娼妓一同を同所に駈り集めて說法を聞かしめたるよし。知らず百餘の惡覺隨喜の涙を垂れて之れを聽きたるか將た舌を吐いて之れを聞きたるか（山梨日々新聞）

品名	十三日
白米（一円ニ付）一等米	一斗〇升一合
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一〇八
五等米	一一五
正米（一円ニ付）越中米	一斗四升五合
下總米	一四三
南部米	一五〇
行方米	一三八
土浦米	一三六
雜穀（一円ニ付）本大麥	二斗八升五合
上小麥	一六五
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六二
白胡麻	一一八
黒胡麻	一四五
鹽（一円ニ付）赤穗	三、二〇（俵）
大鹽	三、三〇
本齋	五、四〇
新齋	五、八〇
醬油（一円ニ付）最上	（樽分厘）七四　七九　八七　一、一〇〇　一、三〇〇　一、六〇〇　一、八〇〇　二、〇〇〇　二、一〇〇　二、七〇〇
極上	
上物	
中物	
並物	
味噌（一円ニ付）地製上白	七、〇〇〇（貫）
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	十三日
絹糸（一圓ニ付）本練花色	二七〇匁
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
延糸色物	三三〇
芥子糸色物	二九五
同薄色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
眞綿（一個ニ付）上々入金	一一五圓、〇〇
上入金	一〇八、〇〇
並入金	一〇〇、〇〇
松入金	九〇、〇〇
竹入金	八三、〇〇
梅入金	七七、〇〇
縮緬大巾上馴	四圓八〇
小巾百廿目立	五、三〇
同並物	五、〇〇
花色絹糸好　七十目附	二七匁、〇〇
八十目附	二七、〇〇
九十目附	二七、〇〇
百目附	二七、〇〇
同小節絹　同生八十匁附	四三、〇〇
同本秩父絹　生百四十匁附	四八、〇〇
吳服（一反ニ付）本糸織	四円、二五
節糸織	三、七五
一樂織	七、五〇
黃八丈	四、〇〇
甲斐絹	三、二五

品名	十三日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	二円、五五
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、五〇
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、三五
同中茶	一、一〇
鰹節（十貫目ニ付）土佐上	二五円、〇〇
薩摩夏	二〇、五〇
同秋	一八、五〇
伊豆大	二五、〇〇
房總夏	二〇、〇〇
乾海苔（百枚ニ付）洲崎	八五錢
大森	八〇
深川村	九五
大師河原	七五
潮田	六〇
上總	五五
水油（一樽ニ付）地水	六円、五五
胡麻	一〇、六〇
荏油	九、七〇
桐油	六、〇〇
冬	七、五二
坂水	七、五五
石油（一箱ニ付）チヤスター	一円、四九
デボース	一、七五
ホーキ	一、五六
ロシヤ	一、六九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

史海 第九卷目次

◎孝謙天皇(續)……田口卯吉君

道鏡、淸麿、眞備、百川等奈良朝の大立物、此に至りて出揃ひたり

◎ジュリアス、シーザル……鹽島仁吉君

歐洲古代の大豪傑にして歐人之を摸するもの少なからす日本の豪傑亦た一讀すべし

◎大利俺(ダリアン)植民策始末……碧川老漁

面白ソーナ計畫は失敗し易きものなり其失敗したるは面白からぬものなりマコーレー之を面白く記せり

毎月第四月曜日發兌○全國無遞送料○一冊金拾錢○一ヶ年分(十二冊)前金壹圓

東京市京橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

史海第一卷五版出來せり

平和

第壹號　三月廿五日發兌

青年ヨ試ニ汝ノ雙眸ヲ放テ汝ノ前面ヲ視ヨ汝ニアラザレバ恐懼セズ汝ニ非ザレバ服從セザル汝ノ好敵手ガ雲ノ如ク霞ノ如ク森ノ如ク林ノ如ク横ハルヲ視ヨ汝遂ニ能ク之ニ打勝ヲ得ベキカ曰姦淫曰兇殺曰苟合曰貪婪曰盗竊曰惡慝曰詭譎曰好色曰嫉妬曰誘讒曰驕傲曰狂妄曰暴狠曰刻濟曰殘忍曰詐僞曰不忠曰不孝曰不義曰不情曰不慈曰背約曰頑梗曰罵詈曰侮辱曰賄賂曰仇恨曰酔酒曰憎惡曰僞善曰權謀曰術策此等は皆青年ノ進路ニ對陣スル強敵ナリ青年ヨ此強敵ニ當ル汝ノ武具ハ何ゾ誠ノ帶、義ノ護胸、福音ノ靴、信仰ノ盾、救濟ノ冑、聖靈ノ劍、赤心ノ祈禱ヲ把リ勇戰セヨ奮鬪セヨ而テ後得タル勝利ハ則眞正ノ平和ナリ天ニナル如キ平和ナリ來レ青年ヨ「平和」ニ來レ我好テ汝ノ靴ノ紐ヲ解カン「平和」ニ讀メ我喜テ燈ヲ捧ゲン「平和」ニ結べ我欣テ勞セン

毎月二十五日發行●一部定價五錢●十部割引四十五錢●全國無遞送稅●郵劵代用一割增

東京赤坂區表二丁目壹番地

日本バプテスマ教會青年會

早稻田文學第拾號目次

釋義

莊子　三島中洲氏

講述

德川文學　關根正直氏

評註

丹波與作　饗庭篁村氏

マクベス　坪内逍遙氏

雜錄

支那小説の話　森槐南氏

歌話　千葉梅園氏

詩話　野口寧齋氏

時文評論

烏有先生に答ふ(其二)●其意を取らず●廿四年文學を懷ふ(不知庵主人)●明治廿四年詩海の現象(局外道人寄)●林甕臣氏の「日本文典」●「なにはかた」の天四居士●大阪文藝會●近刊諸雜誌

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶 金十錢
大瓶 金廿錢

白妙 は薄化粧の料として艶ある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごとき氣味少しもなし

白妙 は化粧下に用ゐて白粉の附き方よくむらにならず又あせをかきてもはげることなし

白妙 を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれることなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞあかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙 は人躰のはだをやわらかにしてつやをよくし眞にゑんびなるはだ合となし色黑き人もしぜんにま白色の美人となるべし

白妙 は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙 はもちまへの香氣によりてもろ／＼の不淨を淸むべし

白妙 は醫藥衛生の諸學理とあまたのためしとにもとづき○ワセリン○リスリン○チノリン 白色顔料其他いろ／＼の藥を以て製造したる無比の化粧料なれば從來世間にありふれたる化粧下や水白粉ねり白粉とは大にきゝめあり

白妙 は人躰に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のをそる可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來かいこくの醫士學士等のとつけんせつと又わがたび／＼のためしとによりてしかとみとむる所なり乞ふおためしの上御ひようばんをたまへ

此白妙は藥劑師大鐘立岱氏の發明創製するものにして本舖に元販賣を托せらる依て陸續御求めを乞ふ

元祖色白くなる三能しやぼん 壹個 拾錢
髮のこやし毛のはへる香油一名美人かつら 一瓶 拾錢
あれ性の御方々は御必用玉子ぬか 壹個 壹錢五厘
御おしろい下ひゞぐすり玉のはだ 壹瓶 六錢

發賣本舖 銀坐一丁目つやふきん 佐々木玄兵衛

正札引なし

新形流行

○はをり紐 品々
○帯留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

右ノ外組糸一切御好ニ應シ精製仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

日本橋區よし町 **佐竹勝兵衛**

組糸老舖

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

簡易出版 **豫約募集廣告**

小生が、明治女學校高等科女生に口授したる講義の中、左の二書に錄したるものは、些さか大方の是正を請ひ度ものあり、且つ地方に在る女生にして其筆記を見たしと要むるものもあれば、簡易出版法を用ひて之を印刷せんとす。同時に毎號殘餘二百冊を得べきに付、下に記す條則にて豫約者に分配せんとす、

女學雜誌社　巖本善治

○講義錄

教育學

憾むらくは世上の君子と意見を異にするものもあるべし、左れど讀考窮査して多少の意見を開陳せり。

女學

年來此の一科の學を講ずるの必要を感じたる也、前年田口鼎軒君は痛たく之を駁し玉へりしが、遂に尙之を講述す。

右二書各々、一冊中本四十頁物にて、月一冊を配付し。凡そ一年にて完了す。

○代價定

「教育學」「女學」ともに一冊各五錢、郵稅二錢、一年分、郵稅合せて八十四錢（社に來受せらるゝ人は郵稅なし即ち六十錢）の定め、一方丈を約せらるゝも可なり。

○豫約期

四月一日に第一冊を配付す、毎號二百冊に限る。豫約申込は、一年前金封入、三月二十日迄の事、兩書ともに豫約の人は前金半年分納あるとも無差支。但し定數に超る時は謝絶す。事務は、下六番町女學雜誌社にて辨ずる事。

皇后陛下
明宮殿下 御覽濟の書

若松賤子譯

小公子

一冊三十八錢也

近日 **再版** 出來上可申候

郵稅一冊八錢也

移轉廣告

岐阜縣安八郡大垣町大字清水

愛岐震災自助會

●女學雜誌大賣捌所○東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○横濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戸福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

少年園

第八拾壹號目次。

發兌　毎月三日、十八日の二回に發兌す。

定價

一册……金五錢　（東京郵送）　金五錢五厘
十二册（半ヶ年分）金五拾二錢　（市内外共）　金六拾壹錢
廿四册（一ヶ年分）金壹圓　金壹圓拾貮錢

華盛頓嬉戲の圖。、卷首の挿畫

少年園。今日の雛祭に就て。◎學園。（蝿の天井を這ひ行く理由。（挿畫）◎譚園。皇后宮陛下御盛德の一端。女子高等師範學校長、細川潤次郎。●巢を營む魚。（挿畫）◎文園。○古錦繡。（芭蕉翁終焉記）●詩人ロバート、バールンス。●背像入）湖處子。●華盛頓の少時。●日本風俗誌。（劇場）獨逸、チット氏著。霞城山人譯。◎芳園。誠質○人の身○遊學生諸君ニ告ク◎叢園。東西英雄傳○人畏るべし畏るゝに足らず○皇太子殿下の令譽（御肖像入）○露の命○節句と初午○白酒○皇恩優渥○放蕩書生ヲ質屋○人類の統計○寄贈圖書

再版發賣

少年文範

右ハ今古ノ妙文字數十章ヲ選出シ、其文理文脈ヲ分析シタル者ナリ。若シ世ノ少年諸子此篇ヲ把テ好細ニ研究セバ、忽チ文章ノ訣ヲ悟リ、一躍シテ文章家タルヲ得可シ。

定價五十錢
郵税無料
爲替拂渡局
駒込郵便局

發行所
東京府下北豐島郡上駒込村十九番地
少年園

日本評論

第四十號（二月廿五日發行）目次

◎日本評論
時事雜感
總選擧後の紛擾○今の政治家も、政論家幷ひにメタホリチックスの大切なるを知らず○政治上社會上の要素は幷進するを要す。其の互ひに交迭するが如きは國家の健康を害すること甚だ大なりとす○國家主義○國民主義を論ず
總選擧後の官民調和策……武市雄圖助
休息修養……雲井春香
社會禮法卑見……陸實
◎理科新報
◎雜錄
パーテル氏に就て○少年學士の序（森鷗外）○小大（百合園主人）○諾威國の禁酒事業○有神的觀念の二大源流

東京麴町區三番町
日本評論社

○經濟雜誌社豫約出版廣告

弊社嘗て經濟學講習會の委托を受け豫約を以て左の諸書を出版したりしが今や此諸書賣切れとなり其相場亦た非常に騰貴し各地よりの要求極めて切なり故に弊社は更に左の豫約を以て出版す江湖の諸君幸に之に應ぜよ

スペンサー氏著　乘竹孝太郎君譯　社會學之原理　四六形上下二册　紙數凡千三百頁　本月中出來　豫約價一圓　定價一圓七十錢　郵送料十八錢
アダム、スミス氏著　故石川暎作君譯　富國論　四六形上下二册　紙數凡千七百餘　來四月中出來　豫約價一圓廿錢　定價二圓　郵送料二十錢
ベーヂホッス氏著　小池靖一君譯述　英國金融事情　四六形全一册　紙數凡二百八十　來四月中出來　豫約價三十錢　定價五十錢　郵送料六錢

右豫約に應ぜらるゝ諸君は豫約價及び郵送料とも來る十五日迄に御入金被下度候也

明治廿五年三月

東京市京橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

第八拾壹號目次。

發兌　每月三日、十八日の二回に發兌す。

定價
一冊……金五錢　(東京郵送市外共)　金五錢五厘
十二冊(半ヶ年分)金五拾二錢　金六拾壹錢
廿四冊(一ヶ年分)金壹圓　金壹圓拾貳錢

華盛頓嬉戲の圖。、卷首の插畫
少年園。今日の雛祭に就て。◎學園。蠅の天井を這ひ行く理由。(插畫)
●巣を營む魚。(插畫)◎文園。古錦繡。(芭蕉翁終焉記)◎譚園。
皇后宮陛下御盛德の一端。女子高等師範學校長、細川潤次郎。●詩人ロバート、バールンス。(肖像入)湖處子。●華盛頓の少時。●日本風俗誌。(劇場)獨逸、チット氏著(霞城山人譯。
◎芳園。誠實○人の身○遊學生諸君ニ告ク
◎叢園。東西英雄傳○人畏るべし畏るゝに足らず○皇太子殿下の令嚳(御肖像入)○露の命○節句と初午○白酒○皇恩優渥○放蕩書生と質屋○人類の統計○寄贈圖書

再版發賣
少年文範

右ハ今古ノ妙文字數十章ヲ選出シ、其文理文脈ヲ分析シタル者ナリ。若シ世ノ少年諸子此篇ヲ把テ好細ニ研究セバ、忽チ文章ノ訣ヲ悟リ、一躍シテ文章家タルヲ得可シ。

定價五十錢　郵税無料
爲替拂渡局　駒込郵便局

發行所　東京府下北豐島郡上駒込村十九番地　少年園

●●日本評論●●

第四十號(二月廿五日發行)目次

◎日本評論
時事雜感
總選擧後の紛擾○今の政治家も、政論家幷ひにメタホリチックスの大切なるを知らず○政治上社會上の要素は幷進するを要す。其の互ひに交迭するが如きは國家の健康を害すること甚だ大なりとす○國家主義○國民主義を論ず
總選擧後の官民調和策……武市雄圖助
休息修養……雲井春香
社會禮法卑見……陸實
◎理科新報
◎雜錄
パーテル氏に就て○少年學士の序(森鷗外)○小大(百合園主人)○諸威園の禁酒事業○有神的觀念の二大源流

東京麴町區三番町　日本評論社

○經濟雜誌社豫約出版廣告

弊社嘗て經濟學講習會の委托を受け豫約を以て左の諸書を出版しノりしが今や此諸書賣切れとなり其相場亦た非常に騰貴し各地よりの要求極めて切なり故に弊社は更に左の豫約を以て出版す江湖の諸君幸に之に應ぜよ

スペンサー氏著　乘竹孝太郎君譯　**社會學之原理**　四六形上下二冊　紙數凡千三百頁　本月中出來　豫約價一圓　定價一圓七十錢　郵送料十八錢

アダム、スミス氏著　故石川暎作君譯　**富國論**　四六形上下二冊　紙數凡千七百餘　來四月中出來　豫約價一圓廿錢　定價二圓　郵送料二十錢

ページホッス氏著　小池靖一君譯述　**英國金融事情**　四六形全一冊　紙數凡二百八十　來四月中出來　豫約價三十錢　定價五十錢　郵送料六錢

右豫約に應ぜらるゝ諸君は豫約價及び郵送料とも來る十五日迄に御入金被下度候也

明治廿五年三月

東京市京橋區彌左衛門町七番地　經濟雜誌社